

地下鉄七隈線沿線 福岡大学／中村学園大学／福岡歯科大学

第16回 3大学合同シンポジウム

# がんを知れば 怖くない



開催日  
令和5年

参加費  
無料

10.15

13:30~16:00

会場 福岡歯科大学 50周年記念講堂

13:30 開会の辞・総合司会

大星 博明  
(福岡歯科大学  
総合医学講座 教授)



当番校挨拶  
小川 正浩  
(福岡大学病院  
副病院長)



同時開催

## 健康相談コーナー

時間: 11:30~13:00

会場: 同会場2階ホワイエ

▶相談内容

- 中村学園大学…管理栄養士による栄養相談
- 福岡大学…体脂肪、血管年齢、血圧測定
- 福岡歯科大学…口腔よろず健康相談

お問い合わせ・申し込み先



学校法人 福岡学園

### 福岡歯科大学 企画課

〒814-0193 福岡市早良区田村2丁目15番1号

TEL. 092-801-0420(直通) FAX. 092-801-3678

### 第1部 > 各大学講師による講演

13:35 **がん薬物療法の最近の進歩**

福岡大学 医学部 腫瘍・血液・感染症内科  
診療教授 田中 俊裕



14:05 **がん発症の予防や遅延に  
関連する食生活とは**

中村学園大学 栄養科学部 栄養科学科  
講師 小野 美咲



14:35 **口腔がんは怖くない**

~早期発見、治療後のQOL向上をめざして~  
福岡歯科大学 口腔・顎顔面外科学講座 口腔腫瘍学分野  
教授 平木 昭光



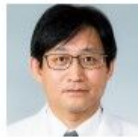
### 第2部 > 公開討論(来場者と講師の質疑応答)

15:20 司会進行

大星 博明  
(福岡歯科大学  
総合医学講座 教授)



小川 正浩  
(福岡大学病院  
副病院長)



16:00 閉会の辞

徳井 教孝  
(中村学園大学 薬膳科学研究所長)



▶お申し込み方法

- 氏名 ● 年齢 ● 性別 ● 住所
- 電話番号 を明記の上、電話、FAX、ハガキまたは申込みフォームよりお申込みください。折り返し受講票をお送りします。



申込みフォーム

※お知らせいただいた個人情報は適切に管理し目的以外には使用しません。

後援: 福岡市教育委員会

# 講演内容紹介

## がん薬物療法の最近の進歩

悪性腫瘍(がん)は、1981年より日本人の死因の第1位となり、現在では年間100万人以上が新規に診断され、30万人以上が亡くなっています。また、生涯のうち何らかのがんに罹る可能性は、男性では2人に1人、女性では3人に1人と推測されています。

一方、最近のがん薬物療法の進歩は目覚ましく、ひと昔前では外科的切除が出来ないような場合でも、薬物療法により腫瘍が縮小し切除可能となる例もあります。特に開発が進んでいるのが、2000年以降に登場した分子標的薬で、がん細胞の増殖・転移・浸潤に関わる分子を標的とします。治療開始前に患者のがん細胞にこれら関連する分子(蛋白や遺伝子)の発現がないかを調べ、これら分子だけを狙い撃ちにするようにデザインされた薬剤(抗体薬や低分子化合物)で高い治療効果をあげています。さらに2019年からは、遺伝子一つずつ調べる検査とは違い、数百ものがん関連遺伝子を一度に調べ、見つかった遺伝子異常の種類に合わせて治療を選ぶ「がんゲノム医療」も普及してきています。

これら多くの薬物療法は、基本的に外来での治療も可能で、福岡大学病院でも外来化学療法センターで専門多職種サポートのもと行っています。



福岡大学 医学部  
腫瘍・血液・感染症内科  
【専門分野】 臨床腫瘍学、分子生物学  
診療教授 田中 俊裕

### 【略歴】

- 1994年 福岡大学医学部卒業
- 1994年 福岡大学病院 研修医
- 1995年 佐賀県立病院好生館 麻酔科研修医
- 1996年 糸島医師会病院、中門市立病院
- 1999年 福岡大学医学部大学院
- 2003年 札幌医科大学分子医学研究部門ポスドク
- 2006年 福岡大学医学部生化学 講師
- 2009年 福岡大学病院腫瘍・血液・感染症内科 講師
- 2017年 福岡大学病院腫瘍・血液・感染症内科 准教授(診療教授)

## がん発症の予防や遅延に関連する食生活とは

がんの30~50%は予防可能とされています。自らの行動でがんを予防することができる習慣として、第一に禁煙や受動喫煙の回避、次に適切な食生活が続きます。エネルギー摂取過剰による肥満は、さまざまな種類のがんの発症に関連しています。逆に、果物や野菜を日常的に摂取することはがん予防に有効である可能性が高いと報告されています。また、食事のみならず定期的な身体活動と適切な体重の維持は、がんのリスクを大幅に減らします。さらに、がんの発症を防ぐ食生活は、がんのみならず、肥満や糖尿病など他の生活習慣に関連する疾病の予防にもつながります。しかし、日々の食事はすぐに目に見える効果や副作用がないため、ややもすればおざなりになることもあります。

今回はこのシンポジウムにご参加されたあと、すぐに皆様の食生活に取り入れられるよう、何をどれだけどのように食べたらよいか、それがどのようにがん予防につながるのかについてご説明します。また、体重はどのくらいがいいのか、どのように体重をコントロールするのかについてもご説明します。



中村学園大学  
栄養科学部 栄養科学科  
【専門分野】 基礎栄養学  
講師 小野 美咲

### 【略歴】

- 2006年 中村学園大学栄養科学部卒業 管理栄養士免許取得
- 2009年 中村学園大学栄養科学部栄養科学科 助手
- 2012年 中村学園大学大学院博士後期課程修了 博士(栄養科学)
- 2015年 中村学園大学栄養科学部栄養科学科 助教
- 2017年 日本肥満学会 生活習慣病改善指導士認定
- 2019年 中村学園大学栄養科学部栄養科学科 講師
- 2021年 日本栄養士会 認定管理栄養士(臨床)

## 口腔がんは怖くない ~早期発見、治療後のQOL向上をめざして~

口腔は味覚や食事の摂取、発音機能など、人が健康で快適な生活を送る上で非常に重要な役割を担っています。口腔内は粘膜で覆われ、種々の良性腫瘍や悪性腫瘍(口腔がん)が発生します。口腔がんは全がんの1~3%と頻度は多くありませんが、年間約8000人が発症し、超高齢社会に伴い口腔がんは増加しています。

口腔がんの標準治療は手術が第一選択で、その他に放射線治療や化学療法、免疫療法などを加えた集学的治療が行われ、治療成績が向上しています。しかし、治療によって咀嚼、摂食嚥下、発音機能や審美的な低下をきたすため、最近では根治性のみならず、治療後のQOLを考慮することが求められています。

初期がんの5年生存率は90%以上で、進行がんと比較して治療成績のみならず治療後のQOLが保たれます。幸いに口腔がんは目に見えるところに発生しますので、早期発見が可能です。

講演では口腔がんの特徴や原因、治療、早期発見の重要性について説明いたします。



福岡歯科大学 口腔歯学部  
口腔・顎顔面外科学講座 口腔腫瘍学分野  
【専門分野】 口腔外科全般、口腔腫瘍学  
教授 平木 昭光

### 【略歴】

- 1994年 九州大学歯学部卒業
- 2002年 麻生飯塚病院 歯科口腔外科医長代理
- 2003年 佐世保共済病院 歯科口腔外科医長
- 2005年 九州大学病院顔面口腔外科 助教
- 2006年 熊本大学大学院医学薬学研究部歯科口腔外科学分野 講師
- 2016年 福岡歯科大学口腔・顎顔面外科学講座口腔腫瘍学分野 教授